

出題の意図

入試年度	令和 8 年度
学部／研究科	薬学研究科
選抜区分	4 年制博士課程
教科／科目	分子病態解析学専攻分野
問題番号	
出題の意図	日本の高血圧患者数は約 4,300 万人と推定されており、成人の約 3 人に 1 人が該当する。高血圧は、日本で最も患者数が多い生活習慣病である。しかし、実際に治療を受けているのは 1,600 万人超に留まっていると考えられたおり、残りの多くは治療未経験か、管理不十分な状態である。高血圧の診療・管理においては、日本高血圧学会(JSH)が策定する「高血圧治療ガイドライン(2025 年より『高血圧管理・治療ガイドライン』に改訂)」が策定されている。このため、日本の標準的な医療方針として明確なものが存在する。 薬学研究科の 4 年制博士課程の入試問題として、高血圧を題材とすることは、循環器系、腎臓、内分泌、神経系などが複雑に絡む病態の理解度を判定し、分子メカニズムから最新の臨床治療まで幅広い知識を問うことが可能であり、適している。 出題においては、「定義と降圧目標」、「病態と合併症」、「体内の血圧調節系との関係」、「薬物治療」、「新たな治療薬」に関して、それぞれ記載することを求めており、入試における知識、思考、論述といった能力を明確かつ正確に判定する。